

2023年度日本家族社会学会大会ニュース No.1

編集・発行：日本家族社会学会研究活動委員会
委員長 木戸功（聖心女子大学）

Email : pxk11112@me.com

日本家族社会学会第33回大会の概要と報告募集のご案内

今年度の「大会ニュース No.1」をお届けします。日本家族社会学会第33回大会は、本年9月2日（土）、3日（日）の両日、神戸大学六甲台第2キャンパス（大会実行委員長：平井晶子会員）にて対面での開催を予定しています。

このニュースでは、大会の基本的な構成と、自由報告ならびにテーマセッション・特別セッション等の応募と締め切りのスケジュールなどをお知らせします。今後、セッションの企画に応募された方、ならびに自由報告を申し込まれた方との連絡は、研究活動委員会が個別に行います。大会についての会員全員へのお知らせは、今後、学会ホームページやメールマガジン、「大会ニュース No.2」で行います。

1. 大会の構成

- 現時点では、以下の構成を予定していますが、応募数などによって変更する可能性があります。プログラムは7月発行予定の「大会ニュース No. 2」でご確認ください。

第1日目 9月2日（土）

10:00-12:30 自由報告(1) テーマセッション・特別セッション
12:30-14:00 昼食・委員会
14:00-16:30 自由報告(2) テーマセッション・特別セッション
16:45-17:45 総会
18:00-19:00 交流会

第2日目 9月3日（日）

9:30-11:00 自由報告(3) テーマセッション・特別セッション
11:15-12:45 自由報告(4) テーマセッション・特別セッション
12:45-14:00 昼食・委員会
14:00-16:30 シンポジウム

- 別途、別刷交換コーナー、書籍販売コーナー、大会報告レジュメコーナー等を設置予定です。
- 会場となる大学までのアクセスなどについては「大会ニュース No.2」でご案内します。

2. 大会シンポジウム「地方暮らしの若者からみる新時代の家族（仮）」

格差、不平等、社会的排除等は、どの世代にも認められる現象ですが、インターネットの普及やコロナの影響は、特に若い世代の働き方や住まい方に、さまざまな変化をもたらしていると指摘されています。また、そうした変化の様相は、地域によって異なることも予想されます。そこで今回は、若者の生活や労働、およびそれらの地域差に関して、近年調査研究を進めておられる専門家を招いてお話を聞き、「新時代の家族」を考える出発点と位置づけたいと考えます。

パネリストとして、2017年『地方暮らしの幸福と若者』（勁草書房）を出版されたほか、兵庫県が2020年に実施した全県調査を軸にした鳥越皓之・足立重和・谷村要編『コロナ時代の仕事・家族・コミュニティ』にもご寄稿されている響田竜蔵先生（同志社大学）、響田先生と長らく一緒に調査をされていて若者の労働がご専門の阿部真大先生（甲南大学）より話題提供をしていただきます。討論者は、久保田裕之会員（日本大学）および田淵六郎会員（上智大学）を予定しています。

機能分化した近代社会をとらえる必要から連字符社会学が成立し現在に至りますが、ゼロ年代以降その境界があいまいになってきたとの指摘もあります。家族社会学以外の社会学者との対話をふまえ、家族社会学における新しい視点を発見し、構想する場づくりをめざしていきたいと考えています。

3. ポスターセッションについて

開催校とも協議した上で今大会ではポスターセッションは実施しません。自由報告は口頭報告のみとなります。

4. テーマセッションおよび特別セッション（国際セッション、ラウンドテーブル、書評ラウンジ）について

さまざまな企画が可能です。昨年度は、【テーマセッション】(1)「近世末における家族の標準化—歴史人口学の成果」、(2)「質的データからみる性的マイノリティと家族の現在—研究の困難・研究と困難」、(3)「量的データからみる性的マイノリティと家族の現在—研究の困難・研究と困難」、(4)「森岡家族社会学の総括と継承」が企画されました。積極的にご提案ください。企画全体や一部の報告を英語で行うことも可能です。

(1) テーマセッション

テーマセッションは「企画全体提案型」のみとなります。一定のテーマに基づいて関連発表を組織し、司会者、報告者、ならびに討論者の有無を事前に企画した上で提案してください。

(2) 国際セッション

海外の研究者を交えて運営される企画をお持ちの方は、「国際セッション希望」と明記してください。このセッションで報告なさる会員外の方の資料の印刷や通訳などに対して、研究活動委員会に若干の補助金枠があります。どのような資金援助を希望するか明記してください。予算は限られていますので補助がない場合の運営方法も考えておいてください。

(3) ラウンドテーブル

定まったパターンはなく、比較的少人数で、話題提供者の問題提起を中心に、自由にアイデアを交換しあうことが目的です。話題提供者の方が申し込んでください。

(4) 書評ラウンジ

書評の対象とする著書や論文をあらかじめ決めた上で、報告者や討論者などを選定して申し込んでください。当日の運営は自主的に行ってください。

5. 企画提案・自由報告申し込み要領と締め切りについて

(1) テーマセッション・国際セッション・ラウンドテーブル・書評セッション

- 企画案の受付開始は 4月7日(金)、締め切りは 4月24日(月) 正午です。申し込みの受付窓口は、「日本家族社会学会ヘルプデスク (jsfs-desk@conf.bunken.co.jp)」です。企画題目と趣旨(800字程度)、オーガナイザー(テーマセッションおよび国際セッションの場合は、司会者、報告者、討論者を含む)を明記してください。
(指定のExcelフォーマットを大会ホームページよりダウンロードして申込内容を記入の上、提出してください。)
- 後日、研究活動委員会から企画案の採択結果をお知らせします。企画が採択されたら、テーマセッションの報告者の方は各自、オーガナイザーと調整の上、要旨原稿を提出してください。国際セッションは、オーガナイザーが責任をもって報告者全員の要旨原稿を提出してください。締め切りはいずれも、5月31日(水)です。
- 提出先は、大会ホームページより、マイページと同じ会員番号とパスワードでログインして提出してください。国際セッションのみ、メール添付にて大会ヘルプデスクにお送りください。

(2) 自由報告(口頭報告)

- 報告申し込み・要旨原稿提出ともに受付開始は 4月24日(月)、締め切りは 5月31日(水)です。報告題目に必ず要旨原稿を添えて申し込んでください。
- 連名報告は認められていますが、口頭報告では1報告あたりの発表者は1名です。
- 日本語以外に、英語での報告も受け付けます。
- 要旨原稿は、大会ホームページのテンプレートのフォーマットを順守して作成してください。日本語と英語で異なります。ご注意ください。また、連名報告の場合のみ、口頭発表者の前に○を入れてください。
- 提出先は、大会ホームページより、マイページと同じ会員番号とパスワードでログインして申し込んでください。

6. その他の特記事項

■ 報告者の資格要件

報告は、本学会会員でありかつ定められた会費を納入していることを資格要件とします。現会員の方は、前年度(2022年度)までの未納会費がないよう注意してください。

新入会員については、5月10日（水）までに入会手続きを行い、その後会費を納入してください。会費納入期日はいずれも5月23日（火）です。ただし、国際セッションの報告については、会員以外の報告を認めます。

- 大会要旨集（PDF）に広告掲載をご希望の方は木戸までメール（pxk11112@me.com）にてお問い合わせください。

7. 今後の予定について

7月中旬には「大会ニュース No.2」（大会プログラム）を公開します。大会に関する情報は、学会のホームページやメールマガジンで逐次お知らせしますので、ご覧ください。

（研究活動委員長 木戸功）

8. 大会実行委員会から

日本家族社会学会第33回大会は、2023年9月2日、3日に神戸大学（六甲台第2キャンパス）にて開催する予定です。昨年に引き続き、対面で開催するべく準備を進めています（現状ではオンラインへの切り替えなどは考えておりません。万が一の場合の対応についてはホームページやメールマガジンにてお知らせしたいと思います）。大会が開催される9月にはポストコロナに向けて社会が本格的に動き出し、相当「日常」が戻っていると考えておりますが、現段階で先を見通すことは難しく懇親会は開催しないことといたしました。そのかわり土曜の最後に交流会を開催し、できれば「お茶とお菓子！」で歓談できる機会を持ちたいと考えています。

神戸大学六甲台地区は六甲山の麓にあり、坂の途中にキャンパスが点在するタコ足大学です。当然キャンパス間は坂道ばかりなので、キャンパスを間違えると会場にたどり着くまでに汗だくになってしまいます。そのかわり（天気がよければ）山を背に大阪湾を一望できます！自然と文化の融合する神戸で、対面開催の意義を、身体でも、頭でも、心でも感じられるような大会をめざして準備を進めてまいります。

多くの皆さまのご参加をお待ち申し上げます。

（第33回大会実行委員会委員長 平井晶子）